

2026年度一般選抜(学部学科試験・共通テスト併用方式)
記述式問題 解答例

学部・学科:2月7日 文学部 史学科

問2 選択した問い番号 ①

白村江で唐・新羅の連合軍に大敗した倭は、さらに高句麗も滅亡する国際的な緊張の中、中央集権的な体制を確立する必要にせまられ、庚午年籍の作成や近江令と称される法の制定など、律令国家につながる政策を進めた。

問2 選択した問い番号 ②

18世紀後半の学問には、資料の徹底的な収集と綿密な考証という特徴がみられる。国学では本居宣長が『古事記』などの精密な注釈をおこない、洋学では前野良沢や杉田玄白がオランダ語を学び西洋の医学書を翻訳した。

問2 選択した問い番号 ③

前漢の武帝は積極的な外征をおこなった。西域では大月氏との同盟のために張騫を派遣し、匈奴撃退後は東西交易の利を奪った。東方では衛氏朝鮮を滅ぼし楽浪郡などの四郡を、南方では南越国を征服し南海九郡を置いた。

問2 選択した問い番号 ④

ドイツ騎士団はエルサレム王国の衰退後、東方植民を積極的におこなった。これは経済的には西欧の経済発展や土地不足に呼応したものであり、宗教的には十字軍の拡大解釈がローマ教皇によって認められたからである。

問3

歴史学は過去を探究する学問であるが、現代的な関心から出発し、唯物史観のような理論を重視する。考察の土台となる史料は、歴史家によって発見され、厳密な調査・解読によって利用可能になる。また歴史学は、過去のあらゆる事象を対象とするため、隣接学問との連携や議論が必須である。歴史学の成果は、常に批判にさらされるものであり、研究者間の相互批判によって研究成果の客観性が高められる。

問4

歴史はアイデンティティの核にあり、共通する価値観をもつ国民を必要とする国民国家にとって、欠くことができぬ構成要素である。よって近代以降、歴史学は国家の庇護を受けてきた。ランケは貴族に叙され、鳥居は日本の植民地政策の利を得て研究をおこなった。しかし、個別対象を愛し、権力を客観視する歴史家は、本人の個性に関わらず強い政治性を有する存在である。石母田による国民的歴史学運動はその代表例といえるであろう。